

社会福祉法人 昴

ART(s) さいほく

ART(s) さいほく



社会福祉法人 昴

ART(s) さいほく

ART(s) さいほく

つながる、 つなぐ発見

厚生労働省「令和3年度埼玉県障害者芸術文化活動普及支援事業（特色型）」ART(s) さいほく 報告書

厚生労働省

「令和3年度埼玉県障害者芸術文化活動普及支援事業(特色型)」

ART(s) さいほく 報告書

目次 index

P2 はじめに

P3-4 地域への協力・地域との連携・協働
障がい者アート展 in おごせへの協力
日高市障がい者創作活動合同作品展への協力

P5-6 埼玉県北西部における相談支援事業所等との連携
NAMI さんのチャレンジ
アトリエ利用

P7-8 発表の機会の創出
アートセッションズ in さいほく

P9 人材育成研修会の企画と実施
支援センターの課題と今後の目標

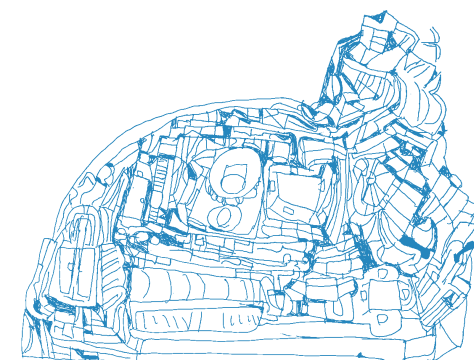
はじめに

3年目を迎えた本事業は、コロナ禍と共に歩んできた。この間に予定したイベントや研修会は、安全を最重要視し、延期や中止、オンラインでの実施、対面とオンラインの併用と、必ずしも計画通りに行かなかった。どうしても企画する職員は「またか」という沈んだ気持ちになりがちで、積極的な姿勢を失いつつあった。

しかし、私たちは止まっていた訳ではない。これまで私たちが大切にしてきた「地域とのつながり」を模索し続けたことで、ささやかだけど、水の波紋のような広がりを見せた。例えば地域とのつながりによって新たな作家と出会いがあり、地域に根ざした展示会も実現した。このような取り組みを今後も私たちの大切な使命としていこうと思う。

障害のある人々の作品を世に出し、身近な地域に止まらず、より広く知ってもらう取り組みは、これまで一定程度の成果を見せてきた。時に私たちの想像を超える、私たちが発見した作家の作品が世界で評価を得るなど大きな反響を得たりもしている。

だが一方で、障害のある人たちが芸術や文化を楽しむための環境の整備や合理的配慮の提供には、まだまだ取り組むべき課題が山積している。それらを私たちの新しい任務とし、今後の活動の柱としたい、と決意を新たにしている。



地域への協力・地域との連携・協働



ART(s)さいほくでは埼玉県西北部を活動エリアとし、地域の障害のある人たちの芸術文化活動のサポートに取り組んでいます。今年度も地域の団体、自治体と連携し、2つの地域で作品展の実施に協力しました。いずれの作品展においても作者をはじめ支援スタッフや町の職員、支援センターが協力し合いながら取り組みました。町の人たちとともに考え協働することは、障害のある人たちが地域の中で活躍する場を広げる大切な第一歩であることを実感しました。



3



障がい者アート展 in おごせ 2021/12/3～12/5 里の駅おごせ（観光センター）

県西部に位置する越生町の障害のある人たちの作品展の実施に協力をしました。同町では初となる作品展とのことで果たしてどのくらいの作品が集まるか未知数でしたが、ふたを開けてみると地域の福祉事業所や個人からたくさんの応募がありました。会場に同町の観光センターを使い、準備・設営、当日の係にも町の職員や福祉事業所のスタッフみんなで取り組み作り上げました。3日間の会期でしたが、約300名もの来場があり、賑わいました。作者が、展示された自身の作品の前で家族やスタッフとともに喜びあう光景なども見られ、温かい作品展になりました。



日高市障がい者創作合同作品展 2021/12/10～12/12 総合福祉センター『高麗の郷』

同作品展に支援センターとして関わることも3回目となりました。今年も作者、相談支援センター、ART(s)さいほくが協働し作品展に向け取り組みました。同作品展は事前に作者による話し合いが行われ、それらの意見が相談支援事業所や支援センターに寄せられ展示レイアウト等に反映されていきます。作者自身が当日の展示作業や係員等にも参加し、また会終了後には交流会などが行われるなど作者の皆さんが主体となる温かい作品展でした。



<作者の声>

- * 展示をするだけでなく、たくさんの作家と交流が持てるのが楽しい
- * 友人が増えた
- * 観に来てくれた人の声を楽しみ
- * 励みになる

<その他の感想>

- * いろいろなテーマの作品が集まっている
- * 作家が直接作品を解説してくれるので発見がありよい



4

埼玉県北西部における 相談支援事業所等との連携

ART(s) さいほくでは相談支援事業所等と連携し自宅等で作品制作等を行っている障害のある作家の発掘や支援に取り組んでいます(東松山市1名、越生町2名 日高市2名) 今年『自分の作品展を開いてみたい』という市内在住のNAMIさんのチャレンジを相談支援事業所と連携し作品展開催まで支援しました。



A bird of happiness 展 カラフル虹鳥 NAMI 2021.7.30 ~ 8.20 まちこうば Groovin' にて開催

NAMI さんからの声

NAMI さんに作品展が終わった後の感想を聞いてみました。

Q. - 展覧会をやってみてどうおもいましたか？

A. - 生まれて初めてあんな大きな絵を描いたのがとても嬉しかったです。いろいろな人に見てもらって褒めてもらったのが嬉しかったです。自分の作品展ができるのが夢でした。

Q. - これからやってみたいことはありますか？

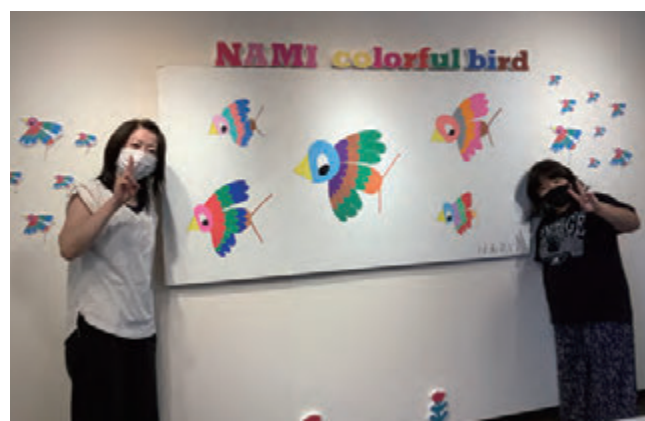
A. - Tシャツとか自分の絵のついたグッズを作りたいです。これからもずっと鳥さんの絵を描いていきたいです。

Q. - ART(S)さいほく (GROOVIN')に期待することはありますか？

A. - 色々教えてもらいたいです。自分ではわからないことや知らないことが沢山あるのでアドバイスが欲しいです。やれそうなことにはチャレンジしてみたいです。

NAMI さん担当の 相談支援専門員からの声

彼女は以前から詩や絵を通してご自分の気持ちを表現していました。ご自宅にはそんな彼女の想いの詰まった作品がたくさんあります。相談員として彼女の生活に寄り添う中で、彼女の作品がより多くの方の目に触れるといいな～という思いからこの作品展の提案をし、それが実現しました。この作品展を経て、作品を作ることがさらに彼女のやりがい・生きがいになっていると感じています。最近では訪問をするたびに新しい作品を見せてくれています。



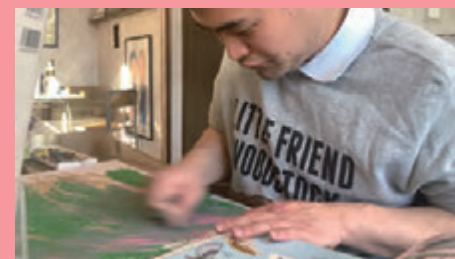
NAMI さんを交えた展示に向けた打ち合わせの様子



会期中、東松山ケーブルテレビの取材を受ける NAMI さん

まちこうば Groovin' のアトリエの活用

福祉事業所でのアート活動だけでなく個々のサービスを使ったアート活動も支援しています。Mさんは、週に1回行動援護サービスを使い、まちこうばGroovin'のアトリエで創作活動を楽しんでいます。



ART(s) さいほく 支援センターからの声

NAMIさんの作品には沢山の「しあわせの鳥」が登場します。カラフルでやさしいその姿には彼女の、みんなに幸せになってほしいという願いが込められています。

展示にあたりギャラリー内に沢山のしあわせの鳥のインスタレーションを作り吊るしました。しあわせの鳥がゆらゆらと浮かぶ姿はNAMIさんのそんな願いを表れているように見えました。

またNAMIさんの作品には人を思いやる気持ちや、周りの人々の幸せを願う詩や文章もたくさん含まれています。彼女のように個人で制作をしている方には誰かに見せることだけを目的とせず、その心をストレートに紡いだ作品が多くみられるように思います。

NAMIさん自身もアトリエに来て大きな作品を描くなど新しい取り組みにチャレンジをしたり、とても喜んでくれました。彼女の『たくさんの人たちに見てほしい』という願いをかなえる一翼を担えたと思います。作品展の実施を通じ、ひとりひとりの願いを叶えるためには相談支援事業所はじめ周囲の支援者との連携も重要であると実感しました。

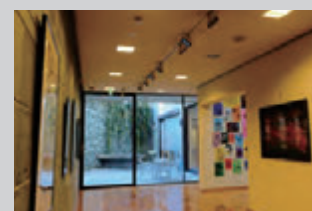
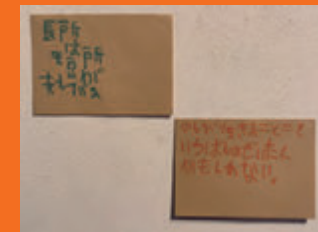
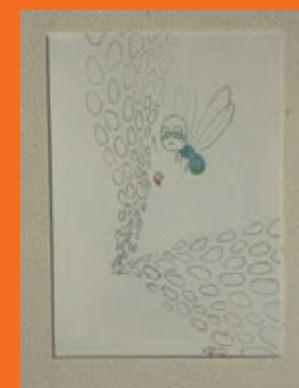
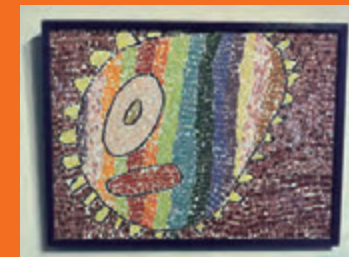
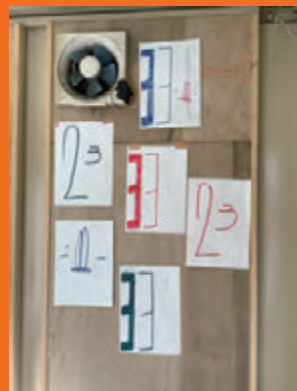
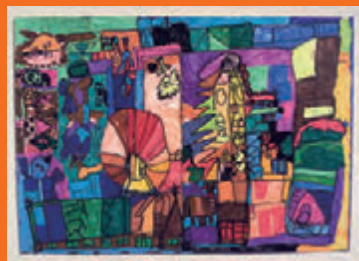
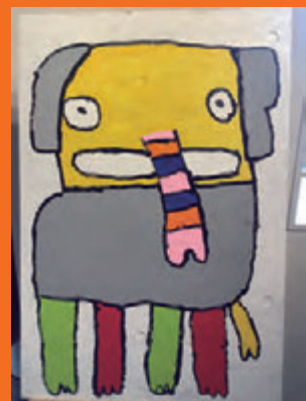
発表の機会の創出

ART(s)さいほくでは埼玉県北西部の障害のある人たちの作品や表現の発掘を行うとともに発表の機会につなげることに取り組んでいます。

今年度も作品展『アートセッションズinさいほく』を企画し、同エリアの福祉事業所や相談支援事業所、特別支援学校等に作品の応募を広く呼びかけました。その結果、障害福祉事業所や個人から102名と数多くの作品の応募がありました。

今年はアート活動を始めたばかりという事業所のフレッシュな作品も数多くみられました。また児童から80代までと多世代に渡る作品が集まりました。

残念ながら新型コロナウイルスの感染拡大のため作品展示は中止となってしまいましたが、同エリアにおいてはまだまだ、たくさんの素敵な作品が生まれていることを実感しました。



地域の公共施設や文化資源の活用

小川町立図書館地下ギャラリー

同施設には地下にギャラリーが併設され、地域の作家やサークル等に活用されています。障害福祉団体にも活用されるようにしていきたいという話も聞けました。地域の中には発表の場として活用できる公共施設や文化資源がたくさんあります。支援センターとして今後こうした情報を、発表の場を求める障害福祉事業所等に発信していくことにも取り組んでいきたいと考えます。

人材育成研修会の企画と実施

知ろう！障害のある人たちの アートのコト 街のコト 表現のコト

講師：鹿野淳氏 音楽ジャーナリスト 出版社(株) FACT 代表
VIVALA ROCK フェス主催・プロデューサー

障害のある人たちの作品や表現の魅力のひとつは、そのユニークな作風や世界観といえます。絵画や造形など形になっていることだけでなく日々の行いの中にも魅力のある表現があり、表現は多岐にわたり見え方も様々です。それゆえに支援する側の気づきや、視点の持ち方も大切になってきます。

ART(s) さいほくでは様々な分野で活躍する方を講師に迎え、それぞれの視点からアートや表現との向き合い方についてお話しいただく研修会も企画しています。研修を通じ、様々な角度から表現のとらえ方を学ぶことをねらいにしています。

今年度は音楽ジャーナリストの鹿野淳氏を迎え、これまでの数多くのミュージシャンの取材や楽曲等を言葉や文章にしていこうと大切にしていることを講演いただく予定でした。

※講師の鹿野淳さんは、埼玉県で毎春開催される大型音楽フェスティバル VIVA LA ROCK を主催しています。これまでに同フェスティバル会場内に障害のある人たちの作品の展示やグッズ販売ブースの設置、ライブへの招待など埼玉県の障害のある人たちの芸術文化活動支援に取り組まれてきました。



コロナの影響により
中止
となりました



厚生労働省「令和3年度埼玉県障害者芸術文化活動普及支援事業(特色型)」
ART(s) さいほく 報告書

支援センターとしての課題と今後の目標

活用される 支援センターに向けて

地域の中でまだまだ支援センターの存在が知られていないことが課題でした。そこで今年度は地域の作品展への協力等にあわせ障害者芸術文化活動普及支援や支援センターの役割を紹介することにも力を入れました。

今後も直接各所に赴き対話をし、地域に活用される支援センターを目指していきたいと考えます。



社会福祉法人 昴 ART(s) さいほく
〒355-0077 埼玉県東松山市上唐子 1532-5 まちこうば GROOVIN' 内
TEL / FAX 0493-81-4597
メール arts_saihoku@subaru-swc.com

社会福祉法人 昴 HP <https://www.subaru-swc.com/>
インスタグラム <https://www.instagram.com/groovin4597/>
フェイスブック <https://fb.com/arts.saihoku/>



社会福祉法人 昴 HP



インスタグラム



フェイスブック

編集・デザイン：東松山 comeya gallery + place <https://www.facebook.com/comeyaHM>